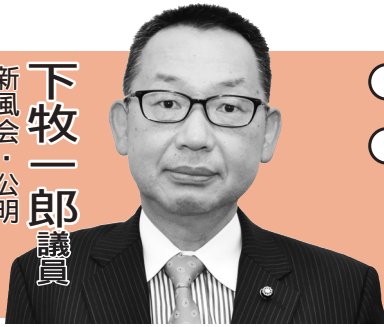


一般質問Q&A

新風会・公明
下牧一郎
議員



○学校の衛生管理について ○コロナ禍の防災について

そのほかの質問

- ・学校への携帯電話の持ち込みについて
- ・「共生」について
- ・修学旅行について

- 問** ①トイレの蛇口を自動水栓にしてはどうか。
②コロナウイルスの影響で失業した人に学校の清掃および消毒作業員として働いていただき、先生の負担を少しでも減らしてはどうか。
③小中学校の各教室に大型の加湿器とストーブを設置してインフルエンザ対策を実施すべきではないか。
- 答** ①国の補助金を活用して順次実施し、現在、各小中学校のトイレの蛇口238か所の内174か所、約73%がすでに自動水栓となっている。また、今年度、6小学校の体育館トイレの高質化工事を実施しているが、その工事の中で自動水栓への交換を予定している。
②文部科学省の衛生管理マニュアルに効率的な消毒方法が示され、市内の小中学校では、児童生徒が行う通常の清掃活動に一部の消毒作業を取り入れていて、教職員の負担もかなり軽減されている。児童生徒や教職員の感染が判明した場合には、外部人材の活用や業務委託を行うことで、教員の負担軽減を図る必要があると考えている。
③加湿器やストーブはこれまである程度設置してきたが、今回の補正予算で防災対策の観点から加湿機能付空気清浄機とストーブを予算計上し、一部を避難所となる学校に新たに配備する予定である。
- 問** ①冬の避難生活に備えて体育館に大型の「ジェットヒーター遠赤外線」ストーブを用意すべきではないか。
②避難所難民が出ることを想定して何か対策を考えているのか。
- 答** ①今回の補正予算で赤外線型ヒーターを整備する予算を計上している。
②分散避難などについて市民の方々に周知するとともに、避難所の収容人数の確保に向けて、新たな避難施設として県有施設の利用や民間施設の駐車場などを避難所として活用できないか検討していく。

一般質問Q&A

新風会・公明
安岡孝一
議員



○「新しい生活様式」に向けた諸施策の具体化について ○地域経済とまちづくりとSDGs

そのほかの質問

- ・保育士や幼稚園教諭、児童センターの職員の支援について

※地域内乗数…地域に入ったお金がどれぐらいの地域経済効果を生み出すのかを示す指標

- 問** 「新しい生活様式」に向けた諸施策の具体化について、次の点を問う。
①GIGAスクール構想の計画と進捗状況
②多くの人が集まる場所の水道やトイレ、ゴミ箱等に手を触れずに済ますことができる自動化の推進
③新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行を見据えて、高齢者のインフルエンザ予防接種の積極的な勧奨
- 答** ①今年度中に、家庭や学校外でも使用可能なタブレット端末を、全児童生徒1人に1台整備したい。特に小学6年生と中学3年生は10月から使用できるよう準備を進め、残りの学年は来年4月から使用できる予定である。
②ソーブディスプレイなどの非接触型設備の設置で感染リスクを低下させる取り組みを研究していく。
③今年度は昨年度より公費負担を増額することで、高齢者は840円の自己負担で接種できるようにする。積極的に受診勧奨したい。
- 問** まちづくりの土台である地域経済の「※地域内乗数効果」を高めていくべきと思うが、市の所見を伺う。
- 答** 環境省が発表している地域産業連関表では、平成27年における勝山市の地域経済循環率は76.8%、年間232億円が市外に流出していると報告されている。地域経済循環率を高めるには、これまで以上に地産地消を推進する必要がある。第6次総合計画の政策推進の根幹とするSDGsの理念を基に、社会や環境に配慮した商品を生み出し、それを付加価値として商品の価値を高めるとして売り上げを伸ばし、経済の循環と発展を推進するビジネスモデルを生み出す必要がある。
- 市としては、こういった取り組みを積極的に支援するとともに、生産者と消費者がダイレクトにつながる道の駅などを活用して地産地消を推進し、地域経済の発展に努めていく。